



発行 KOA 森林塾 (事務局)
0265-70-7065
編集 早川清志
題字 島崎洋路

森林塾Bコース夏の部 報告

『二泊三日は大忙し』

今回一番遠い北海道の興根さんは飛行機で海を渡ってお見えでした。盛岡市の城さん、秋田県の松原さん。そして西の方は奈良県の山本さん、堺市の松本さんご夫妻ほか多くの方が遠方から集まっ

てくれました。測樹から始めて下刈り、除伐、間伐、集材、枝打ちなどの理論と実践、おまけにぶり縄や樹木分類、ナタノコの手入れなど何せ盛り沢山の森林塾エキスを集めたお子さまランチ風。ちよつと欲張りすぎたかな、ひよつとして消化不良気味か

なとも思ったのですが、せつかく忙しい時間をやりくりして遠くからお見えの皆さんに少しでも多くをという先生方とスタッフ側の思いです。お許しください。どのくらいを持ち帰っていたただけでしようか。もう一度復習をしてみて、納得のいかないところなど出てきましたら事務局に連絡ください。



安全帯をつけてはいるものの木の上で両手を離すのは最初は怖い。出来て大森さんの笑顔。

初日の短い自己紹介でした。参加された皆さんの経験も多様、目的もいろいろだと感じましたが、山や木、あるいは自然に対しての思い入れはやはり共通のものがあるなと思えました。遠く台風から伸びる前線の影響で二日目の午後は雨にたたられましたが、それでもさほど気にする風もなくチェーンソーを使つての伐倒をし、キャタトラの集材に見入ってくれました。三日目の朝六時山小屋の外で何人かの声。昨日も遅かったのに何事だろうと覗いてみると朝飯前の一勉強。高さ二十メートルのサワラを相手に先生を囲んでぶり縄木登りの復習。いやはや驚きました。

安井さん、大森さんとインストラクター佐藤がアシナガバチに刺されたくらいで、お陰様で大きな怪我もなく終了することが出来ました。お疲れさまでした。

今回の内容
Bコース夏の部
7月27日～7月29日
7月27日(木)
9時 受付開始
10時 集合 事務局あいさつ、講師の先生方のあいさつ
10時30分 スタッフ(インストラクター、事務局)自己



ともに辛口、両先生

紹介、参加者自己紹介
日程説明等

11時40分 昼食

12時30分 山荘ミルクのマイクロバスにて伊那市野底の財産区有林へ

1時10分 現場着 準備体操の後ナタ、ノコの使い方とびつしり生えた10年生アカマツ林の手入れについての説明

1時40分 5班に分かれ本数を数えた後間伐にはいる。ha当たりの本数は

1班	宮崎、佐藤班	15,000本
2班	川島班	30,000本
3班	藤原班	17,500本
4班	中村班	12,500本
5班	後藤班	10,000本



まずは調査、直径巻尺で小川さん



いつもポケットに一本、直径巻尺



興根さんは北海道からアカマツを伐りに来た。

でした。
2時30分 マツ林の間伐終了。少し離れた50年生のアカマツ、カラマツ林に移動し測樹の説明



ボスのハーモニカコンサート始まる

6時 交流会開始
8時 終了、三々五々ミルクに帰る…はずでしたが、何人かは相当遅くまで島崎先生を囲んで山の話に花が咲いていました。小池さん差し入れのお酒もほとんど空に。(小池さん、ごちそうさまでした)



調査表を完成させないとバーベキューにありつけない

3時 調査区を作り、やぶ払い、測樹
4時10分 測樹終了、現場発
4時40分 小屋着、測樹のデータを元に現況調査表の完成。



切り株で伐倒の復習中



受け口と追い口、つるは直径の1/10程度

7月28日(金)
8時30分 小屋集合 伐倒の説明
9時 マイクロにて野底財産区有林へ
9時30分 準備体操の後、



腰には蚊取り線香、ヘルメットは角源マークの源野さん



自然体でGOOD! 神永さんの玉切り

10時30分 班に分かれて伐る木に印を付け、チェーンソーの使い方の説明にはいる。玉切りなど
11時30分 間伐開始
12時 昼食 ぼつぼつと雨。



交流会修了後アイ・スプライズの講習会が始まった。



イントラ中村のぶり縄デモ。これを見せられると何人かはハマる。

イントラ中村ぶり縄の試技。
1時 間伐再開 それぞれ1〜2本は倒した模様
3時 雨で中断
3時30分 キャタトラによる集材のデモ

4時 現場出発
4時30分 小屋着 ほとんどの方がみはらしの湯へ
6時 夕食会 釜で炊いたご飯が大失敗。ごめん。
7時30分 一応終了。



深夜、藤井先生と坂本先生が小川さんを練習台に縛り教室



キャタトラでの集材。小さな林分では力を発揮する。

7月29日(土)

8時30分 山小屋集合 スケジュール説明、体操
9時 樹木分類をしながら小屋裏のますみヶ丘平地林へ



「降りられない」と坂本さん、セミになる



何せ身軽な最高齢の河井さん(79歳)



サクラなら何ザクラ? 樹木分類

10時 中村山林にてヒノキの下刈。
11時 枝打ちの説明 ぶり縄やワントッチラダーを使い枝打ち開始
12時30分 終了 昼食
1時30分 チルホールを



カマの指導を受ける河井さん



この道半世紀、保科先生のナタはヒゲがそれる



デモ伐倒イントラ宮崎。注目を浴んざらでもない



チャレンジ精神旺盛、杉谷さん

使つて重心と逆方向へ伐倒する、イントラ宮崎と佐藤のデモ
2時 ナタ、ノコ、鎌の手入

3時 両先生のあいさつ、総評
3時10分 解散



感想文を書いてもらって、御疲れさまでした。

参加者/阿部さん、大野さん、大森さん、岡田さん、小川さん、小田川さん、加納さん、神永さん夫妻、河井さん、源野さん、小池さん、興柏さん、近藤(恵)さん、近藤(洋)さん、坂本さん、城さん、杉谷さん、鈴木さん、中島さん

中田さん、平林さん、藤井さん、松原さん、松本さん夫妻、森さん、安井さん、山本さん、依田さん、講師/保科先生、鳥崎先生、インストラクター/後藤、中村、藤原、川島、宮崎、佐藤 事務局/坪木、早川

参加者感想

『KOA森林塾に参加して』 岡田 豊国

次回以降の予定
第9回 8月26日(土) 伐出

8時30分 鳥崎先生の山小屋に集合 前回の間伐の現場、伊那市山本の白山神社で伐つた木を玉切り、自走式集材機で集材する予定です。伐り残した木がある班はまずそれを伐りましょう。

第10回 9月9日(土) 林道設計

8時30分 鳥崎先生の山小屋に集合 場所未定 簡単な測量からできれば歩道作りをしてみたいと思います。

第11回 9月30日(土) きのこと狩り、分類

8時30分 鳥崎先生の山小屋集合 場所未定 今年はこちらのきのこの狩りができるか?ひよつとして次の枝打ちと入れ替えたりする可能性もありますので承知おき下さい。なお10回と11回の間は3週間開きますのでご注意。

めったに経験できない大変有意義な3日間の研修でした。機会があればまた参加したいと思っております。Bコースは3年目というところでスタッフ、カリキュラム等充実しており、工夫されていた。例えば、昼食、夕食もスタッフと一緒にとり、夕食ではアルコールも適度に入り、スタッフ、塾生の話には大変感銘を受け、楽しい時間を過ごすことができた。森林塾に参加するという目指すものが同じ仲間の話というのは、同感するところが多く、大変興味深かったが、全員の人と話ができなかったことが、残念であった。夏の部は3日間であったが、自宅の埼玉からではちょっと遠いので、夏休みを利用して1週間くらいのコースでもよかったです。実習の中で一番よかったのは、胸高直径30センチもある太いアカマツを2本も伐採で



また、事務局のちよつとした心使いも大変よかった。例えば、表紙が厚くしっかりしていて立ったままで記入できるメモ帳、昼食の時に出したトマト、のどが乾いた時の冷たい飲み水等々、大変ありがたかった。最後に、島崎先生、保科先生、各インストラクタのみなさん、早川さんにはお世話になりました。また参加できたらいいなあと思っております。

きたことだ。チェーンソーでエンジンの回転を最高に上げて、手に伝わる激しい振動とうなりを全身で感じながら、アカマツが倒れたときの地面をたたきつけるドスンという地響きは豪快であり、そう快でもあった。大変スカートとしたが、しばらくして40数年も生きてきて、私の手にかかったアカマツには大変申し訳ないことをした。切った木を日曜大工に使ってやりたくなつた。

リー通信

まず「森」に入ろう！

近藤 恵里



「うっ、背中が痛い」これは紛れもなく、「ブリ縄」で木によじ登ったときの筋肉痛。いまだに痒い手の指は、下草刈の際に毛虫のような毛がささってかぶれたもの。体のあちこちの形跡は、そのまま『森林塾』の思い出となっています。『森林塾』から戻つ

て、改めてNHKの「森のドクターと仲間たち」を見直してみました。ついこの間までお会いしていたスタツフの皆さんが画面に登場する度に、テレビに向かつて手を振りたくなるような親近感がこみ上げてきます。「こんにちは」。参加初日、小屋に入った途端に「仲間」がいるという空気を感しました。「ここに来て良かった」、瞬間に思いました。

30名の参加者の皆さんが求めているものは様々でした。「都市部での生活に息が詰まりそう。自分自身のバランスを保つ為に自然が必要」、「自分の山に道を作って森林浴を楽しんで貰い、頂上に温泉を引いてくつろげる宿を作りたい」

「日本中の森を手入れしてあげたい」。それぞれが求める思いは、遠くは北海道から、また年齢も20歳から79歳までと実に幅の広い方々が集うこととなりました。島崎洋路先生のお考えをお聞きするだけでなく、接してみて感じたことは、「あせつてはいけない」ということでした。もちろん島崎先生はそんなことをおっしゃったわけではありません。今ある現実の森の状態を受けとめ、その中で今出来ることのベストを尽くされている姿勢がとても自然体であるのに対し、自分よがりの理想論を掲げ気張っている自分が見えてきたので、自己紹介でもお伝えしまし



だから、皆さんに「森林インストラクターってどんなことをやるんですか？」と聞かれる度に口ごもってしまうのです。みなさん、よくぞ沢山聞いて下さいました。何度汗をかいたことか。でも、これからは「今、私はこういうことをやっていきます」と即答できる自分になるう、それにはまず「森」に入ろう！そう思いました。

借りしてあります。2000坪の土地には、コナラやアブラチャン、セン、サクラなどの広葉樹の明るい森と、胸高直径が40センチは優にあるかと思われる天然のアカマツ、そして植栽したヒノキの複層林仕立てになっている暗い森があります。かつてこの土地の所有者が、材をとるための森にしようとして入れた以上、私もその為の作業を引き継いでいかななくてはならないと思つてお借りしてあります。どの木を伐つたらどの木が育つのか、いい森が出来るのか、その選木が一番大切、そして悩むところ、そんな決定を自分ごときがしてしまつていいのかわ！自信が持てないでいました。今回、森林施業診断書なるものをつくつてみて、自分の考えを理論づけることの大切さを知りました。逆に、そういった理論の積み重ねがなければ、判断をしてはいけななんだと思ひました。今度、八ヶ岳のフィールドに行つたら、さっそく測樹をやりま

また、間伐した木をどうするか、その役立て方にも悩みます。釣った魚はきれいに頭まで食べて成仏願うように、伐った木も何かに役立てたい。例えば材にならなくても、きつと何かに役立つはず。土に返すのも一つですが、特に

ヒノキは何か形にしたい。そこで、毎年秋に八ヶ岳の清里・清泉寮で行われる「ポール・ラッシュ祭」という収穫祭で、間伐材を利用したネームプレート・ドアプレート・木の八ガキづくりの提案をしてみました。子どもを対象としたコーナーで展開出来ることになり、「間伐材って何だるう?」「森のしくみとは?」といった勉強コーナーも加えて、分かりやすいように紙芝居で表したり、近くの森で自然学習をしたりという企画を練っています。只今、10月14日・15日の土日に行われる「ポール・ラッシュ祭」に向けて準備中です。

是非、皆さん遊びに来て下さい。「ちびっこカントリーフェスティバル」というコーナーで、慣れない子供相手に汗をかいていることと思います。

最後に、私の夢。

大きなことは出来ませんが日本の森なんて言いません。八ヶ岳周辺の森を手入れして、気持ちのいい森をつくっていききたい。そして、それが職業として確立していけたら尚いい。里山で沢山の人が憩い、自然の恵みに感謝しながら生活してきた日本人の自然観、取り戻せたいですね。



リレー通信

迷いの日々の中で
長島 利樹



このように不特定多数の皆様あてに文を書くのはあまり経験のないことです。光栄でもあり恐れ多いようにも感じますがとにかくがんばって書いてみたいと思います

私は現在25歳にして大学3年生です。塾生の皆様の中にも学校に通っている方がけっこうおられるようですがまだ一回も社会に出たことがないのは私だけではないでしょうか。大学では森林全般のことを勉強する学科に通っています。しかし自分の場合何がなっても森林系という強い思い



もぜんぜん興味を持たず日々迷いとストレスが貯まっています。もちろんきちんとした目的を持ってきている人達もいる訳でその人達の自信に充ちた目を見るとますます焦ってしまいます。

で受験したのではなく、多くの生物系の大学を受験し、その結果(なんとか)今の大学に落ち着いたという感じですが。大学にいく前の一年間予備校に通わせてもらったのですがそこでの講義はすごくおもしろく、生まれて初めて勉強が楽しいと思えた日々でした。この調子なら大学はもっと楽しく、タメになるところだ。私は耀ける希望を持って大学生活をスタートさせました。しかし・・・自分は甘かったです。当たり前なことですが大学は目的、すなわち何か勉強、研究したいことを決めてそれをするためにいく所。私はそういう明確な目的を持たず「何か」を身につけるため、または世間に認めてもらうため、ととんちんかんなことを考えて入学してしまっただけでした。という訳で入学して講義が始まるとへこみの毎日です。初期の頃は一般教養が多かったというのもありましたが専門の科目

もぜんぜん興味を持たず日々迷いとストレスが貯まっています。もちろんきちんとした目的を持ってきている人達もいる訳でその人達の自信に充ちた目を見るとますます焦ってしまいます。

大学生になったからって人生変わるものではない。やはり大学にいかずどこかに就職したほうが良かったのではないかと。しかし大学生だからできたこともありました。その一つが長い夏休みを利用しての北アルプス標高3000m弱にある山小屋での住み込みのアパートです。山は嫌いという訳ではないのですが特に登山が好きという訳でもなく夏休みが暇そうだからということややはりいるるな物を見なければという思いから応募しました。山小屋での生活は想像以上に刺激的なものでした。人間不便なら不便なりに生きていける。山の上なので食料水も遊びも限られた中でやりくりしていかなければいけません。しかしそのような状況でも楽しくやっていけると。何かを手に入れようにも入れられないので下界にいる時のような物質欲は押さえられ、むしろすっきりしたシンプルライフが送れる訳です。

そんな感じで次の年の夏も私は同じ山小屋に行きました。そしてそこで昨年からの森林塾生(といっても昨年は3回、今年もまだ2回ぐらいしか出席してないらしいですが)の中村賢一さんに出会ったのです。中村さんは私が森林系の大学に通っている

と言つと森林塾の事を教えてくれました。教室での講義だけでは鈍い自分の頭では理解できず、前々から定期的に現場にいて体で勉強してみたいかつたということ、また親切丁寧にかつ実践に即した指導を行っているということでは強い興味を持ちました。また大学生活に悩んでいることを知っている周りの人達からも「お前は行くべきだ」と言われ、私は入塾することに決めました。

しかしながら自分が入塾のために動き始めたのはそんなに早くなかったように思いますが、申し込み案内の請求も中村さん頼みだった気がします。一応定員があるということなので本当に自分が入塾できるのか、とも思いましたが、一方今年には伊那、駒ヶ根(中村さんの自宅がある)に通うことになるだろうなとも思っていました。そしてその通りに入塾することができたのでした。

森林塾に通い始めて何か変わったか?この短期間ではもちろん大きな成果は出ていませんが自分の中では確実にプラスの方向に向かっていると思います。まず学校の講義に前よりもぜんぜんついていけるようになりました。それは定期的に現場(しかも林業の本場の?)に出かけるようになったからだと思います。例

えるならばバラバラだった点と点が結びつくようになったという感じです。

森林塾の講義は毎回毎回素人の自分には濃い内容のことをしていて時々頭が割れそうになる時もありますが、毎回毎回心地よい汗をかかせてもらっています。

伐木。不器用な自分ではできるだけスムーズにかつ安全に倒すように心掛けるだけで気がまわりませんが、先生方が言われるように伐る時、生きている木の命のことを考えている木の命のことを考える、というのは単純に伐採に携わる人達は常に心に留めておかなければいけないことだと思えます。自分は今森林系の学科に進んだのはかなりいい選択だった、と思いはじめます。儲かる分野ではないかもしれませんが広義的に見れば人間だけではなく、地球上の全ての生物が住みやすい環境を作る、ということにかならなくてはならないでしょう。まあ、そんな大きなこととはできないかもしれませんが小さなことでもコツコツと、できれば仕事としてやっていければ、と思います。

なんかまとまりがなく、最後の方は具体性に欠ける文になってしまいました。毎回落ちこぼれ気味の私ですがこれからもよろしくお願いします。残りの約半年間、供にがんばりましょう。



特別寄稿

森林塾交響楽団 結成なるか?! 竹内 恵子

去る7月22日の暑気払いの日、少し遅くまで残っていた方はご存知の通り山小屋の囲炉裏のまわりでは、リコーダー(中学のときに習ったアレスです)4本とハーモニカによる美しい(?)合奏が夜中の12時近くまで繰りひろげられました。いらっしやんなかった方のために少し説明しますと、私、竹内が中学のときの古い笛に加え、中学を卒



業した甥っ子たちからナゼか送られてきた笛を持参し、10時を過ぎた頃おらずと取り出して囲炉裏のまわりにいた方々に「やってみませんか?」とおすすめたので、そして、まわりの優しい方々は突然出現したりリコーダーに驚きながらも、手にとって吹いてみてください、やがて島崎先生もハーモニカを手に合流。そのまま夜はふけていったというわけです。

坂田さんは50年振り(…)とご本人はおっしゃいました。が、実際はもう少し少なかったようです)でリコーダーを手にしたというのに、見る見るうちに吹きこなし、私とともに「エーデルワイス」のデュエットまでしてしまいました。また中には「何でリコーダーなの?」と、単刀直入に素朴な疑問を投げかけられた方もいらっしやいます。リコーダーを吹くのに理由なんて考えもしなかった私は、「だってリコーダーって良いでしょ?」と実に単純なことしか言えず、「そりゃ、良いけど…」とその方はやはり腑に落ちない様子でした。そこで、もう少し詳しく説明しますと、中学の音楽の時間に習って以来、簡単な割りに楽しめるリコーダーを気に入るいは友人と「我が子が小学校で習い始めると親子で吹いてきました。子供たちも、始めのうちは親と一緒に吹くことを楽しんでつき合ってくれていたのが、この頃は誘っても「あとでネ」とつれない返事。森林塾では島崎先生がハーモニカを吹かれるし、私もリコーダーを持ってこようかな…」と思いつつ下手ツピーな笛を披露する勇気がどうしても出なくて早三年。いよいよ森林塾を卒業しなくてはならないような状況だし、ヨシ、みんなで吹けばこわくない!と今年は思いきって四本持参したというわけです。

リコーダーを吹くのに理由なんて考えもしなかった私は、「だってリコーダーって良いでしょ?」と実に単純なことしか言えず、「そりゃ、良いけど…」とその方はやはり腑に落ちない様子でした。そこで、もう少し詳しく説明しますと、中学の音楽の時間に習って以来、簡単な割りに楽しめるリコーダーを気に入るいは友人と「我が子が小学校で習い始めると親子で吹いてきました。子供たちも、始めのうちは親と一緒に吹くことを楽しんでつき合ってくれていたのが、この頃は誘っても「あとでネ」とつれない返事。森林塾では島崎先生がハーモニカを吹かれるし、私もリコーダーを持ってこようかな…」と思いつつ下手ツピーな笛を披露する勇気がどうしても出なくて早三年。いよいよ森林塾を卒業しなくてはならないような状況だし、ヨシ、みんなで吹けばこわくない!と今年は思いきって四本持参したというわけです。

「としきりに残念がり、今度サー竹でケーナを作って、一緒に吹こうよ」と誘ってくださった縄文さんは、いろいろな笛を演奏されているようです。夏休み明けの森林塾に、名札と一緒にそれぞれの好きな楽器を持ち寄り、山仕事の合間に合同練習したら、森林塾交響楽団、忘年会にて華々しくデビュー!なんてことになるといいかも?楽器よりも歌で合わせ、美しい音色が山々にこだましたら、山の木々もスクスク育つかも?(逆じゃないかと心配するのはダレかな?)

とここで、わしは、しつかり飲んどらんと、ハーモニカを吹けない」と湯飲みを手元に置いて、次々とレポートリーを披露してください。島崎先生、竹ちゃん、コンビを組んで老人ホームをイモンして回ろう!と地方まわりの話が飛びだし、「骨まで愛して」の歌は老人ホームの慰問に良さそう…なんて選曲まで始まったこと、覚えてらっしゃいますか?先生が行かれるのなら私もぜひお供いたします。ただし「何で老人ホームなの?」と聞く人がいたら、先生、答えてくださいネ。



立ち寄り情報 「アルプ・カーゼ」 (0265-39-2818)

9時~17時

分杭峠経由で帰られる方へ大鹿村のお勧めポイント。本物志向のチーズがお好きな方は是非ここへ。スイスの田舎を想わせる、小さな牧場。「雄鶏に注意」の張り紙のある、手作りの木の建物で販売しています。成熟期間が違うゴータイプチーズの中から、試食した上で気に入った味を選び、欲しい分だけ切ってください。一〇〇g 五〇〇~六〇〇円が目安。もちろん安全な飼料で丁寧に育てた牛の乳から作られています。これにおいしい赤ワインとフランスパンを、山を眺めながら食べれば、もう気分はヨーロッパです!不在の時も多いようなのであらかじめ確認して下さい。村の中心部から山の方に上がった標高千メートルの所にあります。行き方詳細はじよんのび藤原まで。

コラム

「OLIVE三輪」

将来自給自足の生活を目指している塾生に参考情報。そういう人達はまず鶏を飼うことが多いようですが、このアルプ・カーゼの小林さんのお勧めは山羊。何故なら山羊は素人でも飼い易く、頑健、刈った雑草を食べてくれる、糞はコロコロと扱い易く堆肥

にし易い、蹴飛ばされない。そして栄養価の高い乳が採れる。切羽詰まれば食べられる。ナルホド。鶏よりは愛情が伝わるような感じもしますね、何となく。たまたまTVで下伊那の山羊競り市の模様をやっているのを見ましたら、だいたい三万五千円くらいです。雌一頭、因みに雄は二万五千円くらい。下伊那の山羊は評価が高いらしく、九州から大量に買い付けに来ていた人もいました。昔は結構各家庭で飼われていたんですよね、先生?これから山羊復活の時代が来るかも?

おわりに

「OLIVE三輪」

Bコーズ夏のみなさん、お疲れさまでした。野底財産区有林にはヤマウルシがたくさんはえていました。何となくかたてでしょうか。私は覚悟していましたが、やはりかぶれました。早く直すには絶対に揺かないこと。揺くと長引きます。でも痒くてたまらないんですよね。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp
mi-tsuboki@koanet.co.jp
携帯:0902-53-26375 (開催日)